

救命処置の流れ（心肺蘇生とAEDの使用）

1 安全確認

2 反応なし

大声で応援を呼ぶ

3 119番通報・AED依頼
指令員の指導に従う

4 呼吸は？

普段通りの呼吸であれば

様子を見ながら
応援・救急隊を待つ

呼吸なし
または死戦期呼吸※

※わからないときは
胸骨圧迫を開始する

5 ただちに胸骨圧迫を開始する
強く（約5cm）※
速く（100～120回/分）
絶え間なく（中断を最小にする）

※小児は胸の厚さの約1/3

6 人工呼吸の技術と意思があれば
胸骨圧迫30回と
人工呼吸2回の組み合わせ

7 AED装着

心電図解析
電気ショックは必要か？

必要あり

電気ショック
ショック後ただちに
胸骨圧迫から再開

必要なし

ただちに
胸骨圧迫から再開

胸骨圧迫は 強く 速く 絶え間なく 実施する

8 救急隊に引き継ぐまで、または傷病者に普段どおりの呼吸や
目的のある仕草が認められるまで続ける



救命処置の手順

- 1 安全確認** 状況にあわせて自らの安全を確保してから近づくこと。
- 2 反応確認** 傷病者の耳元で「大丈夫ですか」や「もしもし」と大声で呼びかけながら肩をやさしくたたき、反応がなければ「反応なし」と判断する。
その判断に自信がない場合は大きな声で応援を呼ぶこと。
- 3 119番通報と協力者への依頼** 協力者がいるときは、119番通報とAEDの手配を依頼する。
※ひとりの場合は、まず119番通報をして、指令員の指導により実施する。
- 4 呼吸確認** 普段どおりの呼吸をしているか確認する。
10秒以内で胸や腹部の動きをみて判断する。
- 5 胸骨圧迫 ※30回** 胸の左右真ん中にある胸骨の下半分を重ねた両手で強く・速く・絶え間なく圧迫する。
強く（約5cm）
速く（1分間に100～120回）
絶え間なく（30回の圧迫を繰り返す、中断を最小にする）
※圧迫と圧迫の間は、胸がしっかり元の高さに戻るまで十分に力を抜く（胸から手を離さずに）
- 6 人工呼吸 ※2回**
 - 1 気道確保**
額を押さえながら、あご先をもちあげる。
 - 2 人工呼吸**
 - 額に当てた手の親指と人差し指で傷病者の鼻をつまむ。
 - 口を大きく開けて傷病者の口を覆い空気が漏れないようにし、息を約1秒かけて2回吹き込む。
 - 3 心肺蘇生の継続**
 - 胸骨圧迫（30回）と人工呼吸（2回）を繰り返し実施。
 - 人工呼吸ができない場合は、胸骨圧迫のみを実施する。
- 7 AED装着**
 - AEDの電源を入れる。
 - 電極パッドを貼る。
 - 傷病者の衣類を取り除き胸をはだけ、2枚のパッドを胸に貼る。
 - 心電図の解析が自動的に始まり、「体に触れないでください」と音声メッセージが流れたら、誰も傷病者に触れていないことを確認する。
 - 「ショックが必要です」とメッセージが流れた場合、ショックボタンを押す。
「ショックは不要です」とメッセージが流れたら場合、直ちに胸骨圧迫を実施。
- 8 心肺蘇生の継続** 救急隊に引き継ぐまで心肺蘇生とAED（必要があればショックを実施）を継続する。
※傷病者が目を開けたり、普段どおりの呼吸があった場合はいったん中止し、慎重に傷病者を観察しながら救急隊の到着を待つ。